

在宅療養システム 『淡海あさがおネット』 活用報告

長浜市社会福祉協議会

ほのぼのケアプランセンター第1事業所

所長 高木 洋子

医療と介護の連携の問題点

『2015年度末の調査結果から連携が困難だと思った場面』

- 退院時の引継ぎがスムーズにいかなかった為、在宅復帰に不安が残った。
- 主治医や担当看護師との連絡調整に時間や手間がかかる。
- 知りたい情報があってもリアルタイムに入手出来ない。
- 変更があってもその都度の服薬情報を知ることが困難。
- 患者の個人情報を守りながら連携することが難しい。

事例

- 93歳 女性 独居 県営住宅 介護度1
- 病歴：高血圧、帯状疱疹、高コレステロール、尿閉（バルーン留置）

2人の子供は交通事故と病気で亡くしている。遠方で生まれ近隣に特に親しい友人もいないが、孫が2か月に1回ほどは状態を確認に訪問している昨年、買い物途中で意識喪失して入院後から関わる事となる。 <<記録管理者>>

- 〇〇医院（主治医）
- 〇〇薬局（薬剤師）
- 〇〇病院訪問看護（看護師）
- 介護支援専門員

淡海あさがおネットのメリット

- ・リアルタイムに情報が得られる(主治医面談が不要になる)
 - ・自分の都合のよい時間に連携できる
 - ・情報共有に有する労力が最低限で済む
 - ・突発的な病状変化に関する服薬の変更等がその日にわかる
 - ・セキュリティが万全で個人情報が漏れる心配がない
 - ・記録内容に画像を追加し、皮膚状態などを確認することができる
- * その他、ケアマネ業務で支援経過記録に関する内容を
プリントアウトし、ケース記録の手間を省くことができる